

—SF的状况に置かれたとき、あなたはどようする？—

SF文学を通して見る人間と科学技術の未来

我々の生きる社会は科学技術の発展によって目覚ましい進歩を遂げてきました。AIや医療補助ロボット等、かつてSFの中に登場した技術が我々の生活を豊かにするべく生み出されてきましたが、同時にその技術と向き合うすべも考える必要があると思われます。SFは未だ生み出されていない、しかしこれから登場するかもしれない技術を登場させるとともに、そこで人間がどのように振る舞ってしまうのかを映し出してくれます。

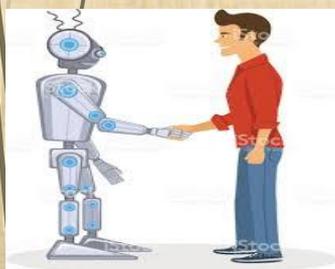
SFというのはそもそもどのようなジャンルなのかを学び、そして作品を鑑賞することによって、これから訪れる技術にどのように向き合っていけば良いのか、一度考えてみませんか。

前半『SFというジャンル—スター・ウォーズはSF作品なのか？』

もしSFが未来における人間像を映し出す装置だとするならば、その虚構世界は読者を説得するようなものでなくてはなりません。SFというジャンルの境界を確定させることで、説得的なSFとはどのようなものかを探っていきます。

後半『SF作品の登場人物になりきって考えてみる』

オーストラリアの作家グレッグ・イーガンの短編小説「適切な愛」を鑑賞し、その中の登場人物の立場になって考えることによって、未来において登場するかもしれない技術とどう向き合っていくかを考えます。



日時：**1月24日(水) 13:00～14:30**

場所：**総合図書館B棟2階ラーニング・コモンズ**

対象者：全学部の学部生（基本知識がなくても参加できます!）（定員10名）

参加申込：下記申込先に「氏名」「学部」「学年」をご記入の上

メールにてお申し込みください。（予約制／飛び入り参加でもOK!）

予約連絡先：kokozukizuki@yahoo.co.jp / 右記のQRコード（担当：上月）

